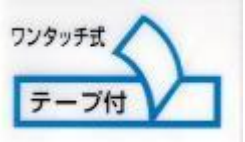
「平和と人権」市民ネットワーク情報 No.23-7（通算 99 号）
事務局発行（TEL 0557-45-1182） http://peaceito.moo.jp 2023.7/1

「平和憲法を守ろう!」の声を広めよう

◇シールステッカーで意思表示

伊藤廣光さんが素敵なシールを作ってくれました。（封筒の中に入っています）ご自宅の郵便受け or 玄関のドアなど目立つところに貼って、「平和憲法を守ろう!」の声を広げましょう。

① シール背面のテープをシール裏面の紙とともにはがします。
② シールの粘着面を郵便受けなどの平らな面に貼り付けます。



◆ハンドティッシュ（宣伝パンフ入り）で世論拡大

パンフは「子ども全国センター」から取り寄せました。これを折り込んだハンドティシュを 300 個作りました。

☞ **7月10日(月) 7 時 10 分頃から 30 分間程度、川奈駅前で**登校する「伊豆伊東高校」の生徒に配布する計画です。

「川奈・吉田 9 条の会」と有志で行います。ご都合のつく方は一緒にやりませんか。なお、他の宣伝活動でハンドティシュを使いたい方は、事務局まで連絡をください。

「情報＆通信」が１００号を迎えます

◆2016 年 1 月 27 日に『「平和と人権」市民ネットワーク』の広報誌としてスタートしました。現在も誌名は当時のままです。その後 2018 年 1 月に「伊東市民アクション」が発足してからは、二つの組織の機関誌的な役割を担っています。月一回の発行が原則ですが、休刊月や臨時号もあって、通算すると、来月号でちょうど 100 号となります。節目のこの機会に、読者の皆様に「情報＆通信」についてご意見や感想を伺うため、アンケートを実施させていただくことにしました。要領は以下の通りです。

◎いつも**メールで**通信を受け取っている方

➜アンケート用紙をこの通信とは別にメールに添付して送信します。用紙を保存して質問項目にご記入のうえ、メールで返信してください。

◎いつも**郵便で**通信を受け取っている方

➜この封書の中に、アンケート用紙と返信用封筒が入っています。質問項目にご記入のうえ、返信用封筒に**切手を貼って**、郵送してください。恐れ入りますが、切手は自弁でお願いします。

◆◆7 月 20 日頃までに送っていただければ、次号で紹介できます。よろしくお願いします。

6月の「19 日行動」

（文責　三好康昭）

6 月の「19 日行動」=スタンディング報告をします。今月は新婦人の会が担当で、たくさんの人が参加しました。25～6 名はいたでしょうか。司会役はいつも元気な竹平和子さん。最初に「青い空は」と「翼をください」をみんなで歌ってスタート。

スピーチのトップは母親連絡会の藤原益美さん。今年の母親大会・伊東分科会が 7/9(日)に観光会館第 1 会議室で「保育・子育て支援」をテーマに開かれると宣伝し、参加を呼び掛けました。次いで石井和子さんが、新婦人から高校生二人を今年の長崎原水禁世界大会に派遣することになったと報告し、拍手がありました。その世界大会の内容を斉藤昭夫さんが詳しく紹介しました。大川好子さんの音頭によるシュプレヒコールを挟んで、久々に参加した反原労の北野幸雄さんがマイクを握りました。北野さんは今国会で成立した悪法の数々を挙げ、中でも原発政策を 180 度転換する GX 電源法を強く批判しました。脱原発の公約から一転、原発回帰に舵を切った岸田政権の変節を弾劾し、浜岡原発の再稼働もありうると警告しました。三好は、入管難民法案の審議における鈴木宗男委員長の「国家あっての人権だ」との発言を取り上げ、ことが安全保障・軍事にかかわるときは、このような国家中心思想が現実化する事態が生じうることを訴えました。

梅雨空を思わせるようなウットオシイ世相ですが、ここに集まる人たちの顔や声や訴えに接すると、新たな元気と活動への力をもらえます。

この人に聞く　二回目

安部川てつ子さん

安部川さんは 2000 年に横須賀市から大室高原に移住されました。移住前から反原発運動にかかわり、仲間の人たちと株主総会の場で東電の事故隠しを追及してきました。2011 年の福島の原発事故に大きな衝撃を受け、伊豆の地で福島の子どもたちの保養ステイを始められました。賛同者が集まり、募金が寄せられ、一人の志が大きな実を結びました。病を得て現在自宅療養している安部川さんを訪ね、反原発運動のきっかけや保養ステイの活動について伺いました。

〈保養ステイ始める〉

三好

(福島の)事故があってどうされましたか。

安部川

できるだけ東京に行って、情報をもらいました。でも、伊東では誰も誘えなかった。みんなと知り合ったのは保養がきっかけだから。事故が起きた年の暮れ、自分がここで何ができるかを考えたとき、ここは保養所とかたくさんあるし、そういうところを使わせてもらえないかなと思って、保養を思い立った。一番先に「絵本の家」の中込さんに相談した。伊豆新聞にチラシを出して、勝俣さんとか来てくれて翌年の 3 月の春休みに一回目はやった。それから三回くらいやったのかな。そのなかに増山さんがいて、ずぅーと一緒にやって、今でもやってくれている。二年くらいは春と夏の二回やっていたけど、大変だから夏だけやるようになった。新婦人は協力してくれた。伊豆新聞で呼び掛けたり寄付を集めたりした。一番初めはたくさん寄付が集まった。120~130 万円。

三好

福島の子どもたちへの参加の呼びかけは?

安部川

福島子どもネットワークに呼びかけました。4 年くらいたって全国保養ネットワークができて福島で二日間説明会があり、そこに参加して新しい人を呼びました。伊東と広野町は音楽でつながりがあって、広野に行って参加を呼び掛けたこともあります。

三好

受け入れの実務ー宿泊するところ、行くコース、昼食の場所ーも大変だったでしょう

安部川

そう、最初は泊まるところがなくて。保養所は夏とか春休みは忙しいのよね。富戸の杉山さんが賛同してくれて家を貸してくれた。人数が多かったので、オレンジ村も借りて女の子だけそっちに泊まった。その時は、福島の県人会が健在で協力してくれた。いろんな人が協力してくれたんですね。二回目は大室の別荘を借りて、三年目は林間劇場を借りた。その後、富戸の駅の近くのペンション・ホライゾンを借り、そしてまた林間劇場を借りた。代が変わっていたけど、ものすごく安くやってもらいました

三好

私が行ったころは原さんが子どもたちを指導していましたね。慣れているみたいでしたね。

安部川

学校の先生は上手にできるんでしょうね。全国的にも学校の先生が多いですね。

三好

子どもたちの感想文とか写真を市役所のロビーに貼りだしていましたね。終わったあと。

安部川

子どもが残してくれたものを貼ったりはしました。お母さんがまとめて送ってくれたりしてね。同じ子があそこに行きたいといって来ましたね。第一回目の子のお母さんが 10 年目だからと言ってお礼の手紙が来たりして。もう大学 3 年生か 4 年生。月日がたったんだなと思いました。私たちは自然の中で遊ぶということで、あまり強制しなかったので、結構楽しかったようですね。保養のグループの中にはいろいろやってはいけないことを決めて、縛るところもあるみたいです。放射能だから全部着替えさせるとか。私たちはそのまま受け入れたからよかった

かもしれない。

国は10年経ってもまだ認めないでしょ、事故の影響を。ベラルーシやウクラナイは、10年後発症例があまりにも多いので事故の影響をちゃんと認めているのです。

三好

映画会をやりましたね、2015年か16年。チェルノヴィルの事故の後の子どもたちの健康調査の様子を。日本から医師が行って。

安部川

チェルノヴィルの時は外からの支援を受け入れたからね。日本は絶対受け入れなかった。松本市長は甲状腺の手術に5年くらい行っていた。日本は受け入れていないので、影響が全然わからない。

三好

甲状腺がんの発生率に有意な差が出ているのに、別の学者が事故の影響ではない、なんて言って否定している。

安部川

そう、20mmSvで大丈夫だなんて言い出して、怖くなってしまう。御用学者っているんですね。

三好

コロナが流行って保養をやめたんですよね。その後は増山さんたちが写真展をやっている。

安部川

いろんなところから写真を借りられるようになったのですね。今年もやったんでしょ？

三好

デュオと市役所のロビーの両方でやったみたいです。

安部川

向こうの人はちゃんと資料も作ってくれているでしょうからね。

〈料理教室のこと〉

三好

保養ステイとは別に料理教室もやられていたのですか。

安部川

自然食の料理教室。17年、18年になるのかな。横浜でやっていて、こっちに来て、何もしないと繋がれないから、といってやりだしたのね。最初はうちでやっていて、そのうち新聞で呼びかけたら20人くらい集まった。それから出入りはありましたが、続いていました。

三好

自然食品教室は放射能とは関係なく？

安部川

全く別ですね。ガンにならないための食事が中心だった。野菜を中心に玄米一食でやっていた。それでいろんな人と知り合った。今ではその人たちを一番頼りにして、何かあるとお願いしちゃう。

三好

移住して人とのつながりを作っていくというのは大変ですね。

安部川

大変ですね。そのきっかけがないですね。子どもがいれば、子どもを通して外に出ていくでしょうけど。料理もですが、集まるのが良かったのね。わりと皆さん元気です。

三好

そういう機会があるといいですよね。特に移住してきた人には。

安部川

最初、八幡野の婦人部に声をかけて一回やったのね。だけと、「一緒にはやれない」と言うので、それならよそ者だけでやろう、となった。それで仲間が出来たのかな。原発のことは、言っているからわかっているでしょうけれど、いきなり「運動をやって」というのはハードルが高いですね。チェルノヴィルの事故のことを知っている人はいなかったもの。

(つづく)